



第 1648 回例会

平成 23 年 2 月 21 日 (月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. ゲスト紹介

衆議院議員 石田 真敏 様
G S E 植田 真帆 様

4. 出席報告

会員総数 65 名 出席者数 45 名
出席率 69.23% 前回修正出席率 70.77%

6. 会長スピーチ



しかったと思います。この 24 日から地区のWCS フィリピン・セブ島訪問に当クラブから、7名が参加されます。気をつけて行ってください。

昨日は R L I パート II が泉佐野市であり、当クラブから中西さんが大変頑張ってくれました。地区の行事ばかりが先行しているようですが、当クラブでも 3 月 12 日に第 2 回の研修委員会、4 月に入れば家族会、タンポポの会とめじろおしです。お忙しい方ばかりですので、時間を調整させていただき、是非、各々の行事に参加してくださることをお願いします。

今日はスピーチ短くして、石田先生のお話をたっぷり、聞かせていただきたいと思いますので、以上です。

7. 幹事報告

- メイクアップ
和歌山北 R C 2 月 14 日 中村雅行君

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

○例会臨時変更のお知らせ

海南西 R C 3 月 10 日 (木) → 3 月 6 日 (日)
紫雲山 中山寺、東光山 花山院

○休会のお知らせ

海南西 R C 3 月 31 日 (木)

○3 月のロータリーレート

1 ドル = 84 円

8. 委員会報告

- 親睦活動委員会 委員長 柳生 享男君
・イーストクラブゴルフコンペと海南 3 クラブゴルフコンペへの出席お願いします。
・親睦委員会の会合 家族会の打合せの件
3 月 12 日 (土) シャンポール

9. ゲスト卓話

衆議院議員 石田 真敏 様

みなさん、こんにちは。海南駅の構内に海南ひな祭りが展示されています。海南は漆器の街ですから、とてもいいと思います。



政局ですが、予算審議など重要な時期を迎えております。菅総理大臣の手腕が試されますが、私の予想として、今すぐの解散はありませんが、3月末まで予算関連法案への各党の賛否、民主党組織の声。統一地方選挙で、おそらく民主党は惨敗となり、菅総理の責任問題などで5月の連休あたしで解散するのではと思います。

民主党の問題点としては、マニフェスト違反、2年連続の大型予算。子供手当などの恒久財源を借金で賄っていることで財政への危機感が高まりました。また、政治とカネの問題も昨年のうちにケリをつけておくべきで、判断力もありません。さらに、外交・防衛政策については、日米中の正三角形の外交で、日米関係は後退し、中国、ロシアの進出を促しました。世界に自民党外交がすすめてきた日米同盟を基軸とした外交方針への回帰が必要です。

一方、自民党の改革ですが、民主党の支持率が低下しているにも関わらず、あまり支持率が上がりません。



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：谷脇 良樹 幹事：上野山 雅也 S A A : 三木 正博

「過去の反省が十分でない」との懸念からで、党内に改革委員会を設け、過去の政策、官僚との関係、党のあり方などを検証しているところです。

2011年は節目の年です。これまでの変革があり、第三の変革を迎える時期に来ています。変革は四半世紀を周期にめぐってきます。第一の変革は明治維新で、ペリー来航からです。第二の変革は満州事変からで「もはや戦後ではない」といわれました。第三の変革は冷戦終結から四半世紀に当たる現在です。

時代のトレンドは、アジアとの共生やITの活用、長寿時代を生きる、環境を守るなど、地域活性化にどう結びつけるかが課題となります。

10. 閉会点鐘

次回例会

第1649回例会 平成23年2月28日(月)
海南商工会議所 4F 12:30~



ニコニコ・BOX

花畑 靖重君

石田代議士、卓話有難うございます。
海南文化協会65周年記念の後援に
谷脇さん、角谷さん。有難うござい
ました。



国際ロータリー ニュース

メルセデス・ベンツ・ブラジルがチリの 復興に携わるロータリアンを支援

チリ大地震の復興に携わるロータリアンを支援するため、ロータークターと国際ロータリー元理事が、メルセデス・ベンツ・ブラジルから56万8千米ドルの寄付を取り付けることに成功しました。

ロータークターで元ロータリー青少年交換学生のアナ・カロライナ・シルベスタ・ダ・コ斯塔さんは、この3年間、メルセデス・ベンツ・ブラジルの総務部に勤務してきました。ロータークターを通じた社会奉仕の経験があるコostaさんは、同社のチャリティ寄付事業を任されることになりました。

上司から、チリ大地震の復興への寄付をどこに行うべきかと尋ねられた際、コostaさんはロベルト・バロソ・フィルホ元地区ガバナーに連絡を取ったところ、同氏から、ロータリー財団ブラジル協会(への寄付を勧められました。

「会社の上層部はすでに、ロータリーの存在やその評判について知っているようでしたし、誰一人として、ロータリーを選ぶことにためらいませんでした」とコostaさん。RI元理事で、元財団管理委員でもあるホ

セ・アフルレド・プレトーニ氏がメルセデス・ベンツ・ブラジルの代表者と、寄付の条件等について話し合いを持ち、ロータリー財団ブラジル協会との橋渡し役となりました。

ロータリー・チリ復興基金

メルセデス・ベンツ・ブラジルの寄付により、地震後設立された財団のロータリー・チリ復興基金を通じて各ロータリー・クラブが活用できる基金が2倍となりました。この地震とその後発生した津波は、多くの家、病院、学校を倒壊に追いやっただけでなく、家族は行き場を失い、学校は閉鎖され、医療事情は悪化しました。



同社による寄付の一部は、コンスティテューション、タルコ、タルカフアノの病院から、患者を地域病院に移送するための救急車3台、子供たちを学校へ送り迎えするミニバン3台の購入にあてられました。残りの寄付は、ロータリー・クラブや地区が、チリの復興を支援するプロジェクトでマッチング・グラントを通じて行うために活用可能となっています。

夕食時の会話から生まれた 合同プロジェクトフェア

18年前、米国カリフォルニア州からメキシコを訪問中の2人のロータリアンが夕食中に交わした会話が、後に地区合同プロジェクトフェア(プロジェクト展示会)に発展し、現在もロータリアンに奉仕の機会を提供し続けています。



第4150地区(メキシコ)と第5130地区(米国カリフォルニア州)によるこの合同フェアのおかげで、これまでにメキシコ各地で140以上のプロジェクトが実施され、160万米ドルもの資金が調達されてきました。

かつて「Festival of Brotherhood」と呼ばれていたこの多地区合同プロジェクトフェアは、1992年に始まりました。当時、メキシコ、トラケパケの広場で夕食を取りながらロータリーについて語り合っていた2人のロータリアンの会話を、たまたま近くにいた神父が耳にはさんだのがきっかけでした。ホスピスを運営する非営利団体「Mano Amiga」の活動に携わっていたこの神父は、ロータリーの評判を以前から聞いており、この団体のニーズについて説明するために2人に近づいてきました。神父の話に感動した2人は、ハリスコにあるグアダラハラ・チャプルテペクト・ロータリー・クラブの支援を得て、Mano Amigaの人々に安全な交通手段を提供しました。